

&lt;創刊号&gt;

# かながわ異グ連ニュース

発行：神奈川県異業種グループ連絡会議事務局 芝 忠  
〒231-0015 横浜市中区尾上町 5-80 神奈川中小企業センター 5F  
TEL：045-633-5192 FAX：045-633-5194  
Email：zan25564@nifty.com http://www.kanagawa-iguren.com

## 異グ連ニュース発刊にあたって (事務局長 芝 忠)

かながわ異業種交流センター開設 (1995.4.1) 以来、異グ連は「かながわ異業種交流センター通信」を発行してまいりましたが、編集スタッフの労力や、発行経費、広告費等の問題から最近では年1～2回の発行に留まっています。会員に対する情報提供という意味では看過出来ない問題になっております。そこで想を改め、月刊または隔月刊くらいで、最新の活動状況や異業種交流関連情報、イベント情報、あるいは異業種交流論等を提供する「異グ連ニュース」(仮称)を発刊する事に致しました。

(財)神奈川中小企業センターのライン的財団業務と異グ連関連業務の区分けを行なうとともに、異グ連の将来の自立化を目標として、異グ連独自活動を強化する体制をこの程確立いたしました。

「異グ連ニュース」は、メール通信もかねて編集いたしますので、それ程多い分量ではありませんが、できるだけ簡便かつ必要な情報はタイムリーにお届けしようと考えておりますので、ご愛読いただくようお願い申し上げます。

編集発行は、強化された異グ連事務局と、ビジネスコディネータ・異グ連交流アドバイザー等で担当いたします。読者の皆様からの投稿も大歓迎いたします。

## 異グ連事務局の体制が強化された

去る6月27日開催された異グ連(H14年度)総会にて承認された異業種交流センター10年計画の推進・実施のため、事務局体制が強化された。新スタッフと役務分担は次の通り。

### <事務局スタッフ>

事務局長 芝 忠 : 総括、理事会、サミット、INF  
事務局次長 渡部 鉄夫 : 総括補佐、事務局長会議、INF  
DND、HP  
事務局員 根岸 良吉 : 総括補佐、事務局長会議、産学公連携、交流大会  
河村 三吉 : 総務、会員管理、山口 Proj  
志村 信雄 : 総務、県内グループ  
(池谷 昭彦 : センター通信)  
大成 隆子 : 会計、会員管理  
島津 俊之 : 中小企業政策研究会、協力団体  
高木 信幸 : ホームページ  
鉅鹿 直賢 : C&Sグループとの連携  
飯島 伸博 : テクニカルショウ  
小野川利昌 : 交流アドバイザー会議、情報センター、異グ連ニュース  
相楽 守 : Proj 運営、情報センター、異グ連ニュース

(柳下紀久治、加藤 文男 : 情報センター他)

連携を密に進めるため、事務局スタッフ会議を毎月開催する。

## 第163回異グ連事務局長会議が開催された

開催日時：H14年9月4日(木) pm2:00～4:30

### <議事>

- 南出議長：最近の金融機関の態様について、無担保無保証人融資制度等を引き合いにして解説された。
- 芝事務局長：異グ連の海外・県外交流の計画日程の報告  
(1)異業種交流国際シンポジウム 9/26～27 台湾にて開催  
(2)シンガポールへの異業種交流現地機関移管打ち合わせ  
10/27～30 シンガポール訪問  
(3)オールディーズシニア交流窓口移管打ち合わせ  
11/2～4 都城市訪問
- 芝事務局長：事務局体制強化の報告
- 各 Proj 報告：I & I、ハイテクリバー、神奈川ハイテクロード、ネットワーク J C & S、オールディーズシニア、シ

フト 21、朋友クラブ、神奈川高度技術支援団体、横浜ネットユニオン、山北工業、神奈川中小企業家同友会、創ネット、N B C、K I K 以上 15 グループから報告があった。

### 5、その他

- ・中小企業異業種交流財団へ協賛金を支払い(15,000x10口)
- ・雇用能力開発機構「であいの広場」は、本年開催せず。

次回は10月7日(月) pm3:00開催予定

## 第一回異グ連交流アドバイザー会議が開催された

開催日時：H14年9月13日(金) pm2:00～4:30

### <内容>

- 南出議長の挨拶の後、芝事務局長から交流アドバイザーの意義と制度実施要領の説明があり、各アドバイザーが自己紹介を行った。

### (1)交流アドバイザーとは

- ①交流アドバイザーA：元ビジネスコディネータ(BC)の方
- ②交流アドバイザーB：民間選定でBC活躍中の方
- ③交流アドバイザーC：BC候補の方

### (2)交流アドバイザー会議の意義

- ①元BCの方への情報の連絡と後輩指導への協力要請
- ②民間選定でBCご活躍の方との情報交換
- ③BCを目指す方への異業種交流専門家養成指導

<交流アドバイザーA>出欠 <交流アドバイザーC>出欠

石井 徹	出	石橋 英雄	出
恩田 精一	欠	小野川利昌	出
吉野 友邦	出	相楽 守	出

<交流アドバイザーB>出欠

石川 富雄	出	田中 弘一	欠
井上 誠一	出	柳下 紀久治	欠
*川名 優孝	出	加藤 文男	出
佐々木哲夫	出		
出口 明子	出	*川名先生も出席され、メンバーに	
和田 政利	出	参加いただくこととなった。	

### 2、異グ連の動きその他の情報交換

- (1)異業種交流 Proj 80 グループを、(財)中小企業センター管轄と異グ連管轄を明確に意識していく必要があるとある。一方、交流支援課事業を異グ連に調査費として委託するという方法もある。

<p>(2)当面の課題の日程報告・・別項に記載した。</p> <p>3、交流アドバイザー会議の進め方について意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横連携の図れる会にしたい。</li> <li>・講習会等のイベントを一覧で知りたい。</li> <li>・事務局長会議やABC会議の内容を知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流アドバイザー制度はBCと異なり、余り規制が強くないほうが良い。</li> <li>・交流アドバイザーAの方の経験談等を提供して欲しい。</li> </ul> <p>4、交流アドバイザー会議は隔月開催を目標とする。</p>
--	--

### 当面の重要日程は次の通り

<9月>

9月25日～27日 台湾国際異業種交流シンポジウム  
9月30日(月) 異グ連事務局スタッフ会議

<10月>

10月4日(金) 第4回異業種グループネットワークフォーラム in 東京・北区  
10月7日(月) 第164回異グ連事務局長会議  
10月7日(月) 中小企業政策研究会「新事業開発“公的補助金”申請・獲得マニュアル出版記念講演会」  
10月10日(木) 異グ連通常型グループ担当コーディネータ会議  
10月23日(水) 異グ連理事会  
10月27日～11月1日 シンガポールビジネス交流会

<11月>

11月2日～4日 宮崎県都城市訪問



## 異業種交流専門家育成講座

異業種交流スキルアップ及びプロの育成の一環として、第一線でご活躍のコーディネーターの方に毎回登場願ひ、経験に基づいた持論を展開いただきます。  
第一回はC&Sグループ会長の八幡敬和氏にお願い致しました。



## 異業種交流グループの性格

八幡敬和

異業種交流グループは、設立の時期によって性格が相違すると云われ、その運営に特徴的工夫を要すると評されることがある。すなわち好況期に設立されたグループは比較的大らかで金払いもよいが、不況期に設立されたグループはギラギラして会費も取りにくい。

しかし、いつまでも好況が続かないのが世の常で、景気が悪くなると遊んで居れないと今日のメシを稼ぐために定例会などに顔を出さなくなる。また不況期を脱すると厳しさから開放された余裕から別の方に目が移り、初心を忘れてこれまた出席しなくなるという。

翻って、ここ10年バブルが弾けてこの方、慢性的不況下にあり、調子の良い話は少なくなり手綱を締める必要が薄れているのも事実である。この時期設立されたグループは構造改革をどのようにして乗り切るかの命題を解決するために糾合したケースが多く、一過性で無いのが特徴でありソリューションの必要性が陸続として存在している。かたや設立20年という好況期設立組もこのような命題に真剣に取り組んでいる事例を目の当たりにすると、異業種交流グループの設立時期によって色分けする事が果たして当を得ているのか、疑問に思う事がしきりである。

グループのリーダーに伺うと、確かに最近の設立組は目の前にある難題を解決する目的で集まった企業経営者であり、問題意識がハッキリしており、共通認識下にあるため召集に苦労は無いように見える。しかし倒産/廃業という危機に曝されている会員企業のコーディネーターには相当気を使っているという悩みを聞かされる。一方好況期に設立の伝統組の場合でも、常に平坦ではなく幾多の難関を突破してきた先輩リーダーのご苦労の結果であるとも云う。

どのような経緯で設立されようとも、絶えざる環境の変化に対応したメンバーのニーズを適切かつきめ細かく掌握したグループの指導者の旗振り如何がそのグループの命脈を左右していると思えてならない。設立時期による性格論で片付けようとするのは、むしろ意欲を失った指導者の言い訳ではなからうか。

活動時期が終わったのにいつまでも群れていたり、環境の変化に呼应しないで相変わらずのやり方でしか出来ないグループは解散するのに越した事は無い。

設立時の多少の違いよりも何を目的に設立されたのかが問題であって、メンバーのグループに対する期待も変わってきつつある中で、指導者としてはどのように仕掛けたらよいか、ソリューションに対する資質・努力度によってグループの性格が形成されると考えたほうが至当ではなからうか。

グループを取り巻く環境の変化と、メンバー企業の意識の変化に合わせたギャーチェンジが必要であり、それができる指導者に恵まれたグループは幸せといえよう。

了